

初の「山の日」 催し続々

今年から祝日となった「山の日」の11日、道内でも各地で山に関する催しが開かれた。好天に恵まれた山々では、自然の豊かさを再認識するとともに、登山の安全やマナーにも理解を深める一日となった。

道警が安全啓発／復元道登山も

道警は、道内に九つある日本百名山で遭難防止を呼び掛けた。上川管内東川町の大雪山系旭岳(2291m)では、道警山岳遭難救助隊と旭川山岳会のメンバー計13人が登山道をパトロールし、道警へりも上空から登山への注意を訴えた。同救助隊の松本孝志さんは、登山者に「こまめに水分補給してほしい」と啓発。

東京から6歳の長男と訪れた主婦八木由子さん(41)は「ペース配分に気を付けた」と話した。道警によると、道内の今年(2016年)の山岳遭難は7月末までに88件と前年同期比29件増のハイペース。死亡者数も同5人増の8人になる。留明管内増毛町と石狩市浜益区を結ぶ増毛山道では、石狩市側の8・7キロを

往復する初のトレッキング(同市主催)が行われた。山道は、江戸幕府から兵員輸送路確保の命を受けた増毛の商人伊達林右衛門が1857年(安政4年)に私費で開削したが、地元NPで廃れていたが、地元NP法人増毛山道の会が2008年からササ刈りなどに取り組んできた。トレッキングでは浜益御殿山頂(1038m)から石狩湾を見渡せた。参加した札幌市厚別区の三橋二一さん(69)は「歴史の重みを感じながら歩いた」と充実した表情を浮かべた。

山の日 超党派の国会議員でつくる「山の日」制定議員連盟が中心となって祝日法の改正案を提出、2014年5月に成立し、今年から施行された。山に親しむ機会を設け、山の恩恵に感謝する目的。登山シーズンに加え、お盆に連休を取りやすいように8月11日に決まった。祝日が新たに設けられるのは、1996年の海の日(7月第3月曜日)以来20年ぶり。



④大雪山系旭岳で、のほりを背負い遭難防止を呼び掛けた道警山岳救助隊の隊員ら
⑤石狩湾を背に、ササ刈りして間もない増毛山道の浜益御殿山頂付近を歩く参加者

山道は、増毛町側の16キロが開通済み。石狩市側は11キロで、残る2・3キロは9月末に復元され、全線開通する見通し。